

DX 推進人材育成研修

企業のデジタル化を推進する上で課題の一つとして「デジタル人材の不足」が挙げられます。そこで、さいたま市産業創造財団では社内中核となって会社の課題解決に繋がるデジタル化を推進する人材育成研修を実施します。

本研修では、座学とワークショップを組み合わせた「共通コース」と参加者に個別ニーズに応じて受講できる「選択コース」で構成しています。DXに関する基礎的な知識を身に着けるとともに社内のデジタル化推進の具体的な手法の習得を目指します。

研修カリキュラム

【事前学習】『ITトレンド丸わかり』DXを支えるIT技術の概要を理解する

(オンライン) 『DXリテラシー向上』ビジネスのケースを用いてDX推進の活動を具体的にイメージする

【第1回】10/05(水) 『DXファーストステップ』「DXとは何か」必要性を理解する

【第2回】10/12(水) 『速習、DX実現の基盤「BPMビジネスプロセス管理」入門』業務プロセス変革を構想できるようになる

【第3回】10/17(月) 『業務改革プロジェクトを成功に導く問題解決力①』

業務改革チームをファシリテートしながら問題解決をリードする経験をする

【第4回】10/25(火) 『業務改革プロジェクトを成功に導く問題解決力②』

【第5回】10/31(月) 『プロジェクトメンバーのためのプロジェクト入門』プロジェクトの計画と推進を疑似体験し、汎用的な知識体系を理解する

【第6回】11/09(水) 『成果につなげるIT企画提案 基礎編』IT化の企画立案に必要なことがわかる

【第7回】11/14(月) 『「RFP提案依頼書」作成と提案評価』外部Sierを選定する際のポイントを理解する

【第8回】 選択式研修

※研修時間：第1回 13:00～18:00 第2～7回 9:30～17:00



参加対象

- デジタル化を検討している管理職・ご担当者の方
- 自社内でDXを牽引していく立場、あるいは候補の方
(IT専門人材以外の方でも取り組みやすい内容としています)

募集定員
10社20名限定

申込締切
9月12日(月)
定員に達し次第
受付終了

研修場所

■ 共通コース：

新都心ビジネス交流プラザ4階
〒338-0001 さいたま市中央区上落合2-3-2
JR北与野駅前 JRさいたま新都心駅徒歩8分

■ 事前学習：各自オンラインで受講

■ 選択コース：

各参加企業の研修スペース



参加費用/お申込み

■ 参加費用：1名2万円
(2人目は+1万円)

1社につき最大2まで申込可

■ お申込み：

下記URLまたはQRコードより
お申込みください

お問い合わせ・お申込み

URLまたはQRコードよりエントリーください

<https://forms.office.com/r/LeK3JFEjha>

公益財団法人さいたま市産業創造財団

事業企画課 丸山、井上

Email: dx@sozo-saitama.or.jp

Tel: 048 851 6652



研修担当講師例



飯嶋 秀行 (い い じ ま ひ で ゆ き)

資格・認定

PHP認定ビジネスコーチ上級
中小企業診断士
PMI®認定PMP® (Project Management Professional)

プロフィール

事業部内の情報システム部門の責任者を経て、PHP認定ビジネスコーチの資格の取得をきっかけに研修講師の仕事を開始。システムの企画・開発・運用経験と、多くの技術職の方に職場で実践できるビジネス・コーチングのスキルを伝えてきた経験を活かし、マネジメント系コース（ITコンサルタントやPMの育成）、ヒューマン系コース（ビジネスコーチング、チームビルディングなど）、実践ワークショップ型のコースを担当している。「技術職の提案力を高めたい」というお客様からのご要望から開発したコース「[要求引き出しスキル実践ワークショップ](#)」は、複数の職場で導入、活用されている。著書に、『コーチングがやさしく身につく物語』（日本実業出版）、共著書に『企業情報システム構築の実際』（同友館）がある。



山内 翼 (や ま うち た す く)

資格・認定

PMI®認定PMP® (Project Management Professional)
CPCC (Certified Professional Co-Active Coach) : CTI認定コアクティブ・コーチ

プロフィール

IT系企業に15年間在籍。エンジニア、プロジェクトマネージャ、社内教育の企画立案/運営/講師にて活動。現在はプロジェクトマネジメントとヒューマンスキル（コミュニケーション、コーチング等）の研修を担当。これら2つの融和性を高めた研修をIT業界に限らず幅広く提供している。

研修プログラム全体の目標

学習目標 (共通コース)

- DX実現が求められる背景や経営環境の変化を知り、自社なりのDXの始め方を整理できる
- DXに取り組む中で活用できるプロジェクト管理や問題解決スキルを高められる
- 自社のDX実現に向けて、業務プロセス変革の手順を知り計画が立てられる

学習目標 (選択コース)

- 業務分析から要件の導出、システム仕様の作成までの流れを理解する
- RPAの導入計画を作成できる
- 人工知能（AI）を活用したビジネスモデルを検討できる
- 統計や機械学習の用語や手法を理解し、ビジネスに役立つ分析を行うことができる
- クラウドサービスのメリットや活用のための基礎知識を得る
- PowerPlatformやUiPathといった主な業務自動化ツールの基本操作を学び業務フローを可視化して部分的に自動化できる
- 情報セキュリティ上の脅威を理解し、必要なセキュリティ技術の基礎知識を得る

研修提供

本研修はトレノケート株式会社と連携した事業です。トレノケート株式会社は創業26年以上の人材育成の専門企業です。年間受講者数約5.3万人、取引先企業数約1,200社、グループ全体で65回以上のアワードを受賞した実績のある企業です。



研修イメージ 例) DXファーストステップ

自分の仕事を提供する価値とその価値のミライをブロックで表現します。ブロックの良さは、どなたでも何かを表現でき、表現しながら、そこに物語が生まれることです。作品を使って他者と対話する中で、より内省が深まり、互いに多くの気づきを得ることができます。他グループの作品も見ながら、自社のDXについてのイメージを拡げていきます。作品は写真で保存し、後日、自社のDXについて考える素材の一つとしても活用できます。(写真の作品は、サンプルです)

ワークの全体像

10年後の「自社」 ～誰にどのような価値を提供しているか～

ここからのワーク全体像 (ミライを描き、そこにつながる第一歩を考える)

ワーク② 10年後のミライの社会
ワーク③ 10年後のミライの自社
ワーク④ 私たちのDXファーストステップを考える

ワーク④-1 「私たちのDXファーストステップ」 (20分)

◆ ワーク③で考えたミライに私たちが到達するために、イマから「何」をすればよいでしょうか？個人個人異なる視点で構いませんか。「私たちにとってのDXファーストステップ(はしめの第一歩)を踏みます。(ヘアでインタビューし合う：一人8分×2)

ステップ① (1分) ステップ② (1分) ステップ③ (1分) ステップ④ (1分)

◆ 動画や今日のワークで学び、考えたことをすべてがヒートとなります
◆ 作品を見ながら考えていきます
◆ 「ファーストステップ」の規模の大小、時間軸の長短、関係者の人数などまったく関係なく、どのような視点でも構いません

【進め方】
◆ヘアを組み、インタビュー形式で相手の考えを引き出します。書き手が付箋紙に書いていきます(1枚1項目)
◆役割を交代して同じようにインタビューし、書き手が付箋紙にメモします
◆「何をしたいですか?」「何をしようと思いませんか?」と確認してください。答えは絶対間違いありません
◆個人作業として「付箋紙」の貼付替えを行います

TRAINIGATE

ワーク③ 自社の「DX」を考える

視点① DX推進時、誰にどのような価値提供ができていますか?
視となる価値:
視となる価値を生かし、誰にどのような価値を提供しているか?
視点② その時、あなたの自身は、どのように価値提供に貢献し、価値から得たい成果や期待の成果としてどんな成果を想像しているか?
価値③ その価値は、あなたの事業や市場からどのような評価をされているでしょうか? 顧客や関係者から「どう評価されている?」を考慮してください。以下の視点から最低1つは考えてみます。
● OOI(自社名)が* * * だよね
● OOI(自社名)が* * * になったね
● OOI(自社名)が* * * だからいいね
● H A OOI(自社名)が* * * しているんだ!
視点④ 現在と変わることと現在と変わらないことは
現在は行っている/あるが、10年後(2030年)には変わらな
現在は2030年も変わらずに続けていること:

TRAINIGATE



DXリテラシー向上研修 DXによる課題解決方法をシミュレーターで疑似体験

ケース 1

あなたは小売店(弁当屋)のオーナーです。お店の利益を最大化するために、最適な発注を行う必要があります。現状の課題として、お弁当を発注しすぎると売れなかった分がロスとなり、原価が高騰してしまいます。逆に在庫がなければそれ以上の来店があった場合に売上の機会ロスとなります。これらの課題に対し、データサイエンス、機械学習を用いて解決の糸口が見つかるか検証していきましょう。



ケース 3

あなたは製造メーカーの工場長です。その工場ではネジの製造し、その検品を目視検査で行っています。しかし、その目視検査を行えるのは熟練の職人数名であり、来年彼らの引退が決まっています。後継者を育てようにも目視検査のノウハウやナレッジは言語化されておらず、対応することができません。製造メーカーとして不良品のネジを出品することだけは許されません。何とかしてこの問題を解決する必要があります。今回はディープラーニングの技術でもある画像分類、物体検知を使ってこの問題が解決できるのか検証していきましょう。

外観検査シミュレーターの問題設定
シミュレーションのルール

- 検査開始と終了時の評価値を設定します。評価値は0から100までの範囲で設定できます。検出と正解に達したことを示します。
- 検出ボタンは強制表示します。検出ボタンは強制表示されます。検出ボタンは強制表示されます。検出ボタンは強制表示されます。
- 検出ボタンは強制表示されます。検出ボタンは強制表示されます。検出ボタンは強制表示されます。検出ボタンは強制表示されます。

DXファーストステップ

～変革のためのポイントとテクノロジーを押さえ、DXの「はじめの一步」を探る

日付	10月5日(13:00～18:00)	形式	事前動画視聴+集合研修(演習)
概要	<p>「わが社もDXを推進しよう!」「うちもそろそろDXに本腰を入れなくては」と言葉が企業内で飛び交うようになりました。経営層や上司などから「DX推進担当になってほしい」と言われ、どこから手を付けたらよいのだろう?と戸惑っている方も多いことでしょう。</p> <p>2020年Covid-19蔓延により、ビジネスのあり方、仕事の進め方、働き方など、急激な変化を求められることとなり、DXへの動きもますます加速することが予想されます。</p> <p>この「DXファーストステップ」では、DXを「先進技術を活用した変革により、企業や組織の優位性を確立すること」と定義し、DXの基礎的な知識と考え方を学びます。また、ワークを通じて、ご自分が所属する組織におけるDX推進のあり方のヒントを得ていただくことを目指します。技術的な側面も概観しますし、組織を動かしていくために検討すべき事項もポイントを押さえることができます。</p>		
学習目標	<ul style="list-style-type: none">● DXとは何か、なぜ必要なのかを説明できる● DXにどのような技術を活用できるのか概要を説明できる	<ul style="list-style-type: none">● 内省や対話を通して、自分や自分の会社がDXを推進するために、どのような取り組みから始めればよいイメージを持つ	
学習内容	<p>【事前視聴の動画パート】※ご受講前に視聴を済ませてください※</p> <p>1. イントロダクション</p> <p>2. DXとは何か?</p> <ul style="list-style-type: none">-DXとは-DX成熟度とは-DX推進とは-DX推進するために <p>3. DXの要素技術</p> <ul style="list-style-type: none">-ビジネス/経営課題とITの関係-クラウド-データ分析-AI/マシンラーニング-IoT-XR	<p>【集合研修でのワークパート】</p> <p>※動画での事前学習を踏まえて、実際に自社のDXについて考える演習を行います。</p> <p>【ワーク】「私の仕事」<イマ>を紹介する</p> <p>【ワーク】ミライの社会を想像する</p> <p>【ワーク】「私の仕事」<ミライ>を考える</p> <p>【ワーク】「私たちのDXファーストステップ」を検討する</p>	
対象者	<ul style="list-style-type: none">・DX推進部署に配属されたり、DX推進タスクに携わったりしている方・DXを推進するために何から始めたらよいか模索している方	<p>前提知識</p> <p>□特にありませんが、集合研修にお越しいただく前に、事前に動画をご覧になっておいてください。「動画内容」については、教室で講義いたしません。(お申込みいただくと、動画視聴のためのIDをご連絡いたします)</p>	
その他	ITの要素技術の名称が数多く出てきますが、ITを深く掘り下げるコースではありません。ITエンジニア、非ITエンジニア、IT企業、事業会社、どなたでも参加可能です		

速習、DX実現の基盤「BPM」入門～BPM×RPAによる業務プロセス変革～

日付	10月12日(09:30～17:00)	形式	講義+演習
概要	<p>デジタル庁の創設など、DX(デジタルトランスフォーメーション)に大きな注目が集まっています。多くの企業がDXによる「新たな顧客価値・体験」を創造する新事業・サービスを目指していますが、それを支えるのは「効率的で柔軟なビジネスプロセス」です。</p> <p>RPAの登場により、PC上の単純線返し作業が自動化され、ビジネスプロセスの局所的な課題は改善できるようになりました。しかし、DXのためには、さらにビジネスプロセス全体を最適化し、しかも「不確実で激しく変化するビジネス環境」に柔軟に対応し続ける必要があります。</p> <p>ここで注目されているのがBPMです。BPMは、業務プロセスを継続的に改善するマネジメント手法で、ITツールと人が混在するビジネスプロセスを計画、実行、モニタし、改善するものです。</p> <p>本コースでは、オンラインの速習1日コースとして、DXに不可欠な「業務プロセス変革の基盤」となるBPMの基礎を学びます。DXにおける業務プロセス変革の必要性、BPMの意義と概要、BPMと相性の良いRPAの特性と活用方法等を概観し、BPMを基軸としてRPAやAIを活用した業務プロセス変革を構想できるようになることを目指します。</p>		
学習目標	<ul style="list-style-type: none">● 業務プロセス変革の必要性を理解する● BPMの概要とDX, AI等の周辺知識を理解する● RPAの概要と活用方法を理解する	<ul style="list-style-type: none">● 業務プロセス変革の手順を理解する● BPMを基軸とした業務プロセス変革を構想できる	
学習内容	<p>1. 業務プロセス変革</p> <ul style="list-style-type: none">- 業務プロセスとは- 変革が求められる背景 <p>2. BPMの概要</p> <ul style="list-style-type: none">- BPMとは- BPMとAI, IoT <p>3. RPAの特性と活用方法</p> <ul style="list-style-type: none">- RPAの概要と特性- RPAの活用と業務プロセス	<p>4. BPMを支えるツール</p> <ul style="list-style-type: none">- 共通言語のBPMN- 支援システムのBPMS <p>5. 業務プロセス変革の手順</p> <ul style="list-style-type: none">- 変革の手順- 推進組織CoE	
対象者	<ul style="list-style-type: none">・DXによる業務プロセス改善・変革に興味がある方・BPMに興味がある方、基礎知識を習得したい方・企画、営業等の部門でDXの周辺知識を広げたい方・生産性向上、働き方改革を検討されている方	<p>前提知識</p> <p>□特になし</p>	

業務改革プロジェクトを成功に導く問題解決力 ～ステークホルダー間の合意形成を図り、プロジェクトをリードするスキル～

日付	10月17日、25日(09:30～17:00)		形式	講義 + 演習
概要	<p>このコースでは研修期間を通じて、企業のケース・スタディに取り組みます。問題を抱えている企業の業務改革チームメンバーとして問題解決を行います。受講者は、業務改革プロジェクトのメンバーに選出された、各課の代表者の役を演じながら、ロールプレイ形式の演習に取り組みます。毎回の演習（問題解決の会議）では、受講者が交代でファシリテーションを実施します。ファシリテーター役は、企業の業務改革チームに参加し、改革チームのメンバーをファシリテートしながら、問題解決をリードしていくことを体験します。プロジェクトチームにおける問題解決の話し合いを効果的にリードするために、「問題解決」「ファシリテーション」「合意形成」のスキルを活用します。</p>			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題解決プロセスの全体像を理解し、説明できる ● 業務改革プロジェクトと問題解決プロセスとの対応を理解し、説明できる ● 問題解決に必要なファシリテーション・スキルを理解し説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 問題解決に必要な因果関係分析を理解し説明できる ● 解決施策を業務改革企画にまとめ承認を得る手順を理解し、説明できる 		
学習内容	<p>1章 業務改革プロジェクトの立上げ 問題の捉え方（2つの視点） 問題解決プロセスと業務改革プロジェクトの対応</p> <p>2章 現状調査 問題解決に必要な基本スキル 場をデザインするスキル 信頼関係構築のスキル 傾聴のスキル 質問のスキル</p>	<p>3章 現状分析と課題の明確化 因果関係分析 因果関係構造図作成のポイント</p> <p>4章 解決策の洗い出しと絞り込み 解決策の立案手順 解決後に達成したい状態の可視化 戦略代替案作成</p> <p>5章 費用対効果分析と投資判断 優先順位による意思決定 期待効果分析（効果測定）</p>		
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善、改革プロジェクトを担当される方 ・プロジェクトに対して、PMO、コンサル的にかかわる必要のある方 ・プロジェクトマネージャやリーダー ・顧客との会議が多い方、社外や他部署との調整を行う立場の方 ・会議進行を行い、利害調整、合意形成を行う立場の方 	前提知識	特になし	

プロジェクト・メンバーのためのプロジェクト入門 ～ストーリー型演習を通じてプロジェクト型業務を体験する～

日付	10月31日(09:30～17:30)		形式	講義 + 演習
概要	<p>プロジェクトについて基礎から学習できるため、プロジェクトにこれから関わる方には最適な研修です。プロジェクトの実務イメージを持っていない新入社員でも、ストーリーを通じて業務を疑似体験することで、配属後のポイントを掴むことができます。プロジェクトに関する基本的な用語を学ぶことができます。</p>			
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトとは何かを説明できる ● プロジェクト立上げとは何か説明できる ● プロジェクトの計画とは何か説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの実行とは何か説明できる ● プロジェクトの完了とは何か説明できる 		
学習内容	<p>1. プロジェクトとは</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトとは - プロジェクトの流れ <p>2. プロジェクトの立上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> - 立上げ時に必要なこと - 背景の理解 - 目的の理解 - ステークホルダーの把握 <p>3. プロジェクトの計画</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の必要性 - プロジェクト計画に必要な項目 - プロジェクト計画策定の手順 	<p>4. プロジェクトの実行</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト実行とは - チーム活動 - 進捗報告 - 課題管理 - 変更管理 - 構成管理 - レビュー <p>5. 終結</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの終結とは - 定常業務への移管 - 検収の実施 - 完了報告書の作成 		
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト、もしくはプロジェクト型業務に初めて参画する方（新入社員を含む） ・プロジェクトの全体像を把握したい方 	前提知識	□特になし	

成果につながるIT企画提案 基礎編 ～企画提案の進め方～

日付	11月9日(09:30～17:00)	形式	講義+演習
概要	このコースでは、現状や課題、IT企画・提案の進め方、企画書の全体像と必要な要素を学習します。経験が無い人や経験の少ない人でも、標準的なプロセスに沿って企画立案を行うことができるようになることを目標とします。		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ●IT企画の必要性を説明できる ●IT企画のプロセスを説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●IT化企画書に必要な要素を挙げることができる 	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. IT部門の役割とIT企画提案 <ul style="list-style-type: none"> - IT部門の業務範囲と役割 - IT企画提案が求められる背景 - IT企画提案の重要性 2. IT企画提案の進め方 <ul style="list-style-type: none"> - IT企画提案のアクティビティ - IT企画提案のゴール - IT企画提案の留意点 	<ol style="list-style-type: none"> 3. IT企画提案ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> - よくない提案書の例 - IT企画提案の全体像と構成 - アクティビティごとのポイント - プレゼンテーション 4. まとめ <ul style="list-style-type: none"> - IT企画提案を実務で生かそう - IT企画提案力を高めるためには 	
対象者	・IT化の企画を行う方	前提知識	<input type="checkbox"/> 特になし

RFP作成と提案評価 ～最適なIT調達の実現に向けて～

日付	11月14日(09:30～17:00)	形式	講義+演習
概要	このコースでは、ベンダーにIT化企画の内容を正しく伝えて、ベンダーが精度の高い提案・見積もりを作成するために必要な情報を漏れなく記載したRFPを作成すること、提案内容を適切に評価して、経営者が納得できるベンダー選定ができるようになることを目指します。		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ●RFPに必要な要素を説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●提案の評価基準や評価項目を挙げることができる 	
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. RFPとは <ul style="list-style-type: none"> - RFP（提案依頼書）とは - RFPが必要な理由 - RFPは誰がいつ作るのか - なぜユーザーがRFPを作るべきなのか 2. RFPを作成する <ul style="list-style-type: none"> - RFPの構成 - RFP作成のポイント - プロジェクト立ち上げ - 現状分析 - 課題を導出する - 解決の方向性を決める - RFPを実際に作成する 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 提案を評価する <ul style="list-style-type: none"> - RFP説明会を実施する - 提案評価を行う - 提案評価の視点 - 評価表を作成する - ベンダー選定を行う - プロジェクト立ち上げ 4. まとめ <ul style="list-style-type: none"> - IT企画提案のゴール - IT企画提案の留意点 	
対象者	・IT化の企画を行う方	前提知識	<input type="checkbox"/> IT化企画立案の経験がある <input type="checkbox"/> 「成果につながるIT企画提案 実践編 ～承認される企画書を作ってみる～」(CNC0049G)を受講済みか、同程度の知識がある

選択式コースの例

テーマ	形式	コース名
上流工程体験	講義 + 演習	要求定義（前編）
上流工程体験	講義 + 演習	要求定義（後編）
業務プロセス改善	講義 + 演習	RPA入門
業務プロセス改善	講義 + 演習	RPA × BPMによる業務プロセス改善
AI活用、データ活用体験	講義 + 演習	AIプランナー入門
AI活用、データ活用体験	講義 + 演習	DX推進 AIビジネス活用コース
AI活用、データ活用体験	講義 + 演習	DX実践 データサイエンス活用コース
クラウド／基盤	講義	ビジネスパーソンのためのクラウド入門
クラウド／基盤	講義 + 実機演習	AWS Cloud Practitioner Essentials
Microsoft関連 （ワークフロー自動化）	講義 + 机上演習	Microsoft365基礎
Microsoft関連 （ワークフロー自動化）	講義 + 実機演習	PowerAppsで実践する業務アプリのローコード 開発ハンズオン
Microsoft関連 （ワークフロー自動化）	講義 + 実機演習	Power Platformによる業務アプリ開発
個別ツール	講義 + 実機演習	UiPath速習プログラム入門編
セキュリティ	講義	情報セキュリティ対策 技術概要

ポイント 1

**DX人材の育成に向けて基礎から
体系立てて学べます！**

DX・ITに関する基礎的な知識が見につくだけでなく、推進に向けた具体的な手法（分析・開発）から実践（企画提案・外部企業選定方法）まで一通り学ぶことが可能です。

ポイント 2

**各企業の要望に合わせた研修が
受けられます！**

参加企業には7日目まで共通の研修を受けて頂いた後、さらに深掘したいテーマなど約20コースから個別に1つ選択して受講することができます。（各企業5名まで）

※選択式の研修につきましては企業ごとの開催のため、講師を企業へ派遣、もしくはオンラインでの開催となります。

お申込みから研修受講の流れ

